

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-77	高等学校	国語科	現代文 B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 ―― 教出	現 B 326	精選 現代文 B		

1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法に示された「教育の目標（教育基本法第二条の第1号～第5号）」を、学習活動を通じて実現できるように編修しました。すなわち、言語や文化についての幅広い知識と教養を身に付け、個人の能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるようにしました。同時に、生命を尊び、自然を大切にし、主体的に社会の形成に参画する態度、伝統と文化を尊重する態度、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。

教材の選定について

編修にあたっては、小学校・中学校での国語学習、「国語総合」での現代文学習との一貫性をはかるとともに、より一層の発展・深化を旨とした教材選択・配列を考え、近代以降のさまざまな文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めることを目的としました。

第一部12単元・第二部10単元の2部構成とし、教材は多彩なテーマから選びました。

- 評論：29教材 逆説的芸術論、科学的手法の性質、日本とヨーロッパの芸術観／近代社会と家族、言語と貨幣、異世界／アイデンティティとナショナリズム、記号としてのファッション、他者と自己／記号としての地図、脱構築について、資本主義と欲望／近代の論理、現代社会論／環境と人間本位主義、進化論の誤解、科学技術と現代社会／テクノロジーと身体、アーキテクチャと自由、ポスト近代後の社会／近代的知性、歴史と物語、言語と認識／グローバリズム、日本文化の幽玄、テキストを書く行為と読む行為／陰翳と料理、日本の美、古典文学批評
- 随想：4教材 自然との互酬関係、世代論、水俣病の記憶、シベリア抑留
- 小説：9教材 明治・大正・昭和・平成まで幅広く選定
- 詩歌：8教材 詩6教材、短歌10首、俳句10句
- 実用文：1教材 手紙文例
- 表現：2教材 短歌を作る、分析して報告する
- 参考：4教材 日本の近代化、近代の文学論、文学の意義、随想的小説
- 資料：2教材 文体から見る近代文学史、評論文キーワード解説

2. 対照表

1. 高校生として社会を見つめる視点と社会の中での自分の位置を見極める想像力を養うバラエティ豊かな

教材を選定し、言語や文化についての**幅広い知識と教養を身に付ける**ことができるようにしました。

2. 近代以降に作り出されたさまざまな仕組みについて考え、自分の意見を持ち、他者の視点を受け入れることで、**創造性を培い、更に主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う**ことができるようにしました。
3. 自分たちの身体や、科学技術、ジェンダーなどの問題に関する教材を通じて、**生命を尊び、自然を大切に**し、**環境の保全に寄与する態度を養う**ことができるようにしました。
4. 世界の過去と今について考える教材を通じて、**国際社会の平和と発展に寄与する態度を養える**ようにしました。
5. 日本の文化や、古典に関する教材の学習を通じて、**伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重する態度を養える**ようにしました。

図書の内容・構成と**教育基本法第二条の第1号から第5号**との対応を示します。

教育基本法第二条

- 〈第1号〉幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 〈第2号〉個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 〈第3号〉正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 〈第4号〉生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 〈第5号〉伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

第一部			
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	
評論一 ミロのヴィーナス 知とは何か 日本の庭について	清岡卓行 内田樹 山本健吉	「 ミロのヴィーナス 」では、不完全なものの逆説的な美の姿を明確に照射することで、常識を破る発想や逆説的な表現をたどり評論文の持つ説得力を感じ取る体験ができます。〈第1号〉 「 知とは何か 」では、いまここにおける賛同者の多寡（評価）によってではなく、時空を超えた人々の協働作業によって、検証や改善の作業が継続することを条件としてはじめて成り立つという科学的な方法の性質にふれることができます。〈第1号、3号〉 「 日本の庭について 」では、日本とヨーロッパの庭園や芸術観を比較していくことで、日本の庭の代表として賛美される龍安寺の石庭がヨーロッパ的な芸術理念に基づく例外的存在であることを知ることができます。〈第5号〉	P8-29
小説一 山月記	中島敦	「 山月記 」では、昭和初期に書かれた優れた短編小説を読むことで文学作品の鑑賞力を養います。 また、特徴的な文体と独特な視点で登場人物の心理を追いつつ、劣等感と自尊心に揺れる内面の矛盾を追体験することで、人間存在の真相に迫る考察を主体的・自覚的に深めることができます。〈第1号、2号〉	P30-41
評論二 市民社会化する家族 言葉と貨幣 方法としての異世界	今村仁司 丸山圭三郎 見田宗介	「 市民社会化する家族 」では、互いに独立した領域としてみなされていた「家族」「市民社会」「国家」の関係が、近代社会においてはバランスを崩し、危機の中にあるということが提示されており、今後の展望について、主体的に社会の形成に参画するために考察を深めることができます。〈第3号〉 「 言葉と貨幣 」では、言葉と貨幣が共にそもそも存在しなかった価値を作り出す関係から成り立ち、そうした関係の中でのみ価値をもつ非実体的な存在が、あたかも自らに内在する即自的な価値であるかのように現前し、人間の意志を超えて動き出し人間を拘束するという筆者の主張を理解し、日常的なものから真理を求める態度を養います。〈第1号〉 「 方法としての異世界 」では、現代社会から失われたものが存続している遠く離れた世界を知ることを通じて、現代社会の内部には気づくことのできない現代社会の問題点を発見し、克服していくことの重要性に気づくことができます。〈第3号、5号〉	P42-67

図書の内容・構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
小説二 ころころ 夏目漱石	<p>「ころころ」では、明治の文豪夏目漱石の作品を通して、登場人物の心理変化を読み取り、人間の孤独や言語表現の可能性について考えることができます。</p> <p>また、「評論五」単元の「〈参考〉現代日本の開化」と関連して、私たちの生きる今の時代の基礎を作った明治という時代を知ることによって発展させることもできます。〈第1号〉</p>	P68-97
評論三 アイデンティティの混交性 衣服という言葉 他人の中の自分 梅森直之 小野原教子 池上哲司	<p>「アイデンティティの混交性」では、ベネディクト・アンダーソンの考察を通じて、筆者は異なる考え方をする相手に近づき、自らの混交性を肯定することで初めて多様な文化の間に立つことができることを論じており、アイデンティティについての新たな視点を得ることができます。〈第3号、5号〉</p> <p>「衣服という言葉」では、服を着ることで自分の所属する集団の色々な役割を背負わなければならないという不自由さと、好きな時に脱いだり着たりして誰とでも繋がる自由の両方を得るとする服のもつ記号としてのはたらきについて知ることができます。〈第2号〉</p> <p>「他人の中の自分」では、「自分」は、他人と言葉の共通性を媒介にした「意味としての他人」として互いにはたらきかけ合う過程で立ち現れる不安定で流動的なものであり、確固たる主体としての「自分」というものがあるのではないという視点を得ることができます。〈第2号〉</p>	P98-121
随想 互酬性の地平——エカシの語りから 世代について 今福龍太 四方田犬彦	<p>「互酬性の地平——エカシの語りから」では、石狩アイヌのエカシ（長老）は、アイヌ（人間）とカムイ（熊）との関係は捕食者と獲物という一方的な搾取関係ではないと語っている。人間と自然との互酬的な関係性という豊かな自然観を養います。〈第4号、5号〉</p> <p>「世代について」では、情報化社会とグローバリゼーションが人々にもたらしたシニシズムという病に抗するために、世代ではなく同じ問題を共有する者の親密さを根拠に語るべきだとする筆者の世代論批判が社会を形成する視点を形成します。〈第3号〉</p>	P122-133
評論四 地図の想像力 脱構築とは何か 資本主義と社会的欲望 若林幹夫 大橋洋一 岩井克人	<p>「地図の想像力」では、地図に表現された世界は限定的な世界像であり、多様な現実の一つに過ぎないというテキストとしての地図の意味を論じており、現実をとらえるということが一様ではないという気づきを得られます。〈第1号〉</p> <p>「脱構築とは何か」では、脱構築が単純な二項対立の確認をめざしているのではなく、盲点を見ようとする「思考できないもの（unthinkable）」を思考することであることを知ることができます。〈第1号〉</p> <p>「資本主義と社会的欲望」では、現代社会においては、「欲望」の構造が資本主義と同じ構造であることが述べられ、現代の社会構造の中で生じているふるまいについて自覚することができます。〈第1号〉</p>	P134-159
詩歌 竹 永訣の朝 のちのおもひに 落葉 小諸なる古城のほとり 小景異情 現代の短歌 現代の俳句 萩原朔太郎 宮沢賢治 立原道造 ヴェルレエヌ・上田敏訳 島崎藤村 室生犀星	<p>詩歌単元では、近代以降の時代を画した韻律を味わうことができます。いずれもそれぞれの時代の代表的な作家であり、日本近代詩の確立に大きく貢献した作品で、生徒は韻文表現の豊かさや言葉の可能性について主体的に学ぶことができます。</p> <p>人口に膾炙した作品を読み、また音読することによって、近代詩のもつリズムや形式、比喩などの修辞法を体感的に理解し、味わうことができます。〈第2号、5号〉</p>	P160-181
表現のスイッチ1 言葉を吟味して短歌を作ろう	<p>「言葉を吟味して短歌を作ろう」では、穴埋め短歌という方法を通じて、言葉の選び方や作品の味わい方、そしてその論じ方を学ぶことができます。〈第2号、5号〉</p>	P182-183
小説三 バックストローク 卒塔婆小町 小川洋子 三島由紀夫	<p>「バックストローク」では、虚構が現実を描く文学の心髄を体験する恰好の教材で、日常に潜んでいる生理的違和感を具象化して描かれ、現代の病理をわかりやすい形で考えさせてくれます。〈第1号〉</p> <p>「卒塔婆小町」では、世阿弥の能楽を現代の戯曲に書き起こした名作で、生きることや美を追い求めることの悲哀を独特の文体で味わうことができます。〈第1号、5号〉</p>	P184-217
評論五 「である」ことと「する」こと 「安楽」への全体主義 〈参考〉現代日本の開化 〈参考〉漫罵 丸山真男 藤田省三 夏目漱石 北村透谷	<p>「『である』ことと『する』こと」では、わが国の社会構造と思考の特質を衝いた定評のある教材であり、近代の論理を学び、現代社会の状況と課題を問われます。〈第2号〉</p> <p>「『安楽』への全体主義」では、今日の社会が不快の源を徹底して排除しようとした結果、一面的な「安楽」を優先的価値として追求することを批判しており、現代社会が安楽追求の末に失ったものを取り戻す必要性が問われます。〈第3号〉</p> <p>「〈参考〉現代日本の開化」「〈参考〉漫罵」では、「『である』ことと『する』こと」に関連して、日本の近代がどのような課題を抱えているかを夏目漱石の講演から学ぶことができます。〈第2号、3号〉</p>	P218-251

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
実用文 通俗書簡文 樋口一葉	「通俗書簡文」 では、小説家として知られる樋口一葉がまとめた実用的な文章集『通俗書簡文』から年始の挨拶状の文例を読み、年賀状や挨拶状など手紙の形式を学ぶことができます。 〈第1号〉	P252
第二部		
評論一 環境保護は何を意味するか 理不尽な進化——誤解を理解する 加茂直樹 吉川浩満 技術の変質と二十一世紀の課題 加藤尚武	「環境保護は何を意味するか」 では、人間が保護しようとしている地球環境とは自身の生存に有益な環境であり、こうした人間本位の姿勢について自覚が促されます。 〈第4号〉 「理不尽な進化——誤解を理解する」 では、私たちが目的論的な思考習慣をもっているために、たとえ科学的には正しくなくとも、世界はこういうものだという世界像の中で生活していることを自覚することができます。 〈第4号〉 「技術の変質と二十一世紀の課題」 では、技術の発展が人間の意思決定の仕組みを超えていることを指摘しており、現代社会の諸課題を考察するためには理系と文系の溝を越える哲学が重要であることを認識できます。 〈第4号〉	P254-279
小説一 檸檬 〈参考〉文学の概念 レーダーホーゼン 梶井基次郎 加藤周一 村上春樹	「檸檬」 では、昭和初期の優れた短編小説を読むことで文学作品の鑑賞力を養います。また、独特な感覚表現や比喩・形容で登場人物の心理が描かれ、生活をむしろ憂鬱から解放させた檸檬の存在感と想像力から、人間存在の真相に迫る考察を主体的・自覚的に深めることができます。 〈第1号〉 「〈参考〉文学の概念」 では、「檸檬」に関連して、一つのレモンを通じて、文学の経験が科学的な経験と日常の経験とどのように関係しているか、考察を深めることができます。 〈第3号〉 「レーダーホーゼン」 では、登場人物の心理について、二つのできごとの関係の個性が、語り手にも明確に説明できないものとして描かれ、読み手は想像力をもって味わうことができます。 〈第1号〉	P280-303
評論二 〈私〉はどこへ行く？ アーキテクチャの権力 ロスト近代 黒崎政男 大屋雄裕 橋本努	「〈私〉はどこへ行く？」 では、テクノロジーの発達が人間の意思決定の仕組みを超えていることが指摘されており、これからの世界を生きる学習者は貴重な意義を感じ取ることができます。 〈第2号〉 「アーキテクチャの権力」 では、ある特定の行動をとらざるを得なくさせるシステム（アーキテクチャ）を誰が作っているかということに気づくことなしに従わされてしまう支配のあり方に気づき、社会のありようについて自覚的に考察することができます。 〈第3号〉 「ロスト近代」 では、「ロスト近代」の駆動因がインターネットによって洗練された価値の表明によって公共性を支えることにあり、企業の利潤追求と消費者の自由な活動を通じて公共的なものが生み出されつつあると述べられ、これからの社会についての新たな論理を見いだすことができます。 〈第2号〉	P304-325
小説二 俘虜記 忘れられたワルツ 大岡昇平 糸山秋子	「俘虜記」 では、戦争下における人間の極限状態の心理が描かれ、時代に翻弄されつつ生きる人間の描写から、文学と時代の関係についてや生きることの意味などを主体的に考えることができます。 〈第1号、4号〉 「忘れられたワルツ」 では、大きな災害後の日常を生きる人々の視点が描かれ、平穏も苦しみもさまざまである人間が、同じ時間の中で社会を作っていくことの難しさや可能性について想像力をはたかせることができます。 〈第1号〉	P326-355
評論三 「知」をこえる知 「歴史」を語る 言語が見せる世界 田川建三 野家啓一 野矢茂樹	「「知」をこえる知」 では、近代が「知性」に頼り招くことになった諸課題を「感性」によって克服することはできず、善悪両面の影響力を洞察する「真の知性」をもつことが必要という文章から、社会の課題に対してどう向き合うべきかを考えることができます。 〈第1号、3号〉 「「歴史」を語る」 では、史料という「物語」を通じてしか歴史的事実を知り得ないと述べられた文章から、歴史的事実とされている中に、どのような解釈が加わっているか考えることができます。 〈第1号〉 「言語が見せる世界」 では、現実の世界が私たちの知覚する典型的な物語から常に逸脱しているということから、私たちが世界の理解を進めていくことを知り、自らの認識を捉え直すことができます。 〈第1号〉	P356-381
随想 後生の桜 望郷と海 石牟礼道子 石原吉郎	「後生の桜」 では、娘の最期を語る母の美しくも悲しい言葉を通じて、忘れてはならない記憶として水俣病を鋭く浮き彫りにし、人間の生命の尊厳について深く思索を促すことができます。 〈第4号〉 「望郷と海」 では、敗戦後にシベリアで抑留された筆者の記憶の語りを通じて、個人の価値や生きることの意味について深く考察を深めることができます。 〈第2号、4号〉	P382-395

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
評論四 グローバル化の波打ち際で 西谷修 幽玄の神秘主義 中沢新一 出来事としての文学 小林康夫	<p>「グローバル化の波打ち際で」では、グローバル資本主義が、先進国がそれ自身の内部にもつ利潤の源泉領域を構築するシステムであり、そこで生き残ることのできる人々のみを振り分けているという現代社会の構造について洞察を深めることができます。〈第5号〉</p> <p>「幽玄の神秘主義」では、『新古今和歌集』の時代に生じた自然との距離を取り戻す「幽玄」という美学が日本的なもののモデルとなったという論理から、伝統や文化を尊重する態度を養います。〈第5号〉</p> <p>「出来事としての文学」では、宮沢賢治の詩の解説を通じて、書くという行為と読むという行為の意味について、捉え直すことができます。〈第5号〉</p>	P396-423
小説三 舞姫 森鷗外 〈参考〉妄想 森鷗外	<p>「舞姫」では、主人公の苦悩は近代日本の苦悩でもあり、自我の目覚め、近代的な恋愛、封建的家族制、立身出世、留学などの近代日本の問題が描かれます。この教科書の最後の小説教材として雅俗折衷の擬古文体の魅力を味わうことができます。〈第1号〉</p> <p>「〈参考〉妄想」では、「舞姫」に関連して、随想的な小説から舞姫には描かれない留学帰国時の青年の心情を読み味わうことができます。〈第2号〉</p>	P424-453
評論五 陰翳礼讃 谷崎潤一郎 日本文化私観——美について 坂口安吾 平家物語 小林秀雄	<p>「陰翳礼讃」では、日本の料理や食器が、暗い室内の陰翳の中で供されることを前提としているという筆者の論理展開によって、我が国の文化に思いをはせ尊重する態度を養います。〈第5号〉</p> <p>「日本文化私観——美について」では、当時の日本人が生活様式において西洋風になり、それを猿真似として恥じる風潮もあった中、そこに真実の生活がある限り、真の美が生まれるという肯定的な姿勢をとる筆者の美についての考え方と比較して、美に対する考え方について批評的に考え直すことができます。〈第5号〉</p> <p>「平家物語」では、『平家物語』の描写に関する筆者独自の批評が述べられており、古典の読み方について、新たな見方を得ることができます。〈第5号〉</p>	P454-474
表現のスイッチ2 資料を分析して報告しよう	<p>「資料を分析して報告しよう」では、「働くことの意識」について調査した結果を表した複数のグラフを読み解くことを通じて、自分なりに働くことの意識について考えることができます。〈第2号〉</p>	P475-476
資料編 近代文学史——文体の変遷 評論への展望——キーワード集	<p>「近代文学史」では、近代以降の文学が生み出した「文体」の変遷についてまとめました。〈第5号〉</p> <p>また、「評論への展望——キーワード集」では、評論文を読むにあたり必要な事物の解説をまとめて示し、学習段階に応じて繰り返し参照できるようにしました。自律的な学習を促進する中で、自主および自律の精神を養い、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度が養えるようにしました。〈第2号、5号〉</p>	P478-488

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、以下の点について編集上の工夫をしました。

- ◎近代以降に書かれた多種多様な文種と、さまざまなジャンルの文章によって構成し、全体を通じて、中学校での学習の成果を発展拡充させながら、学習が進められるように配慮しました。〈学校教育法第五十一条第1号〉
- ◎評論文や文学的な文章に関連して参考にする文章を示すことで、社会についてより理解を深めとさまざまな視点からの健全な批判力を養えるようにしました。〈同第2号、3号〉
- ◎より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮し、色覚特性を踏まえた、判読しやすい配色やレイアウト、表示の工夫により、学びやすい紙面づくりに配慮しています。
- ◎教科書の印刷には再生紙と植物油インキを使用し、地球環境への影響を少なくするように配慮しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-77	高等学校	国語科	現代文 B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	現 B 326	精選 現代文 B		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

編修の基本方針

- ① **広い視野と深い考察** 教材は、さまざまなジャンルから精選し、現代文Bを通じて、多様なものの見方や考え方が理解でき、現代社会に生きる日本人としての自覚を養えるような教材を選定しました。
- ② **理解し、表現する** 私たちが日本語の歴史の中で「考える」存在であることを改めて認識し、日本語とその言語文化に興味を抱いたり、現代の問題について考えを深めたりすることができるように課題を設定しました。
- ③ **自ら学び、自ら考える** 「自ら学び自ら考える」ことのできる主体の形成に資するものであるように構成を工夫しました。

教材の特色

2年・3年の2か年での使用に対応した2部構成をとりました。

高校生として、社会を読み解く力とともに、社会の中における自分の位置の見極め方も養えるような教材を、特定の分野に偏らないようにバランスよく取り上げました。(評論29教材, 随想4教材, 小説9教材, 詩歌8教材, 実用文1教材, 表現2教材, 参考4教材, 資料2教材)

本文は「読解注」によって、読解に必要な視点を得ることができます。「読解注」は、教材を読み進めるうえで、注目すべき文章のポイントとなる箇所に、発問の形で現れます。読み飛ばしてしまいがちな記述に着目し、注意深く読み進める契機となります。

また、「語句」によって、辞書を使った言葉の学習のポイントを確認できます。「語句」には、文中に出てくる意味の難しい言葉や読み方の難しい熟語などをまとめてあります。辞書を引いて確認しながら文章を読み進めることができます。

読解注 注目すべき文章のポイントとなる箇所に、発問をつけました。

語句 辞書を引いて確認したい語句をまとめました。

言葉と貨幣
丸山圭三郎

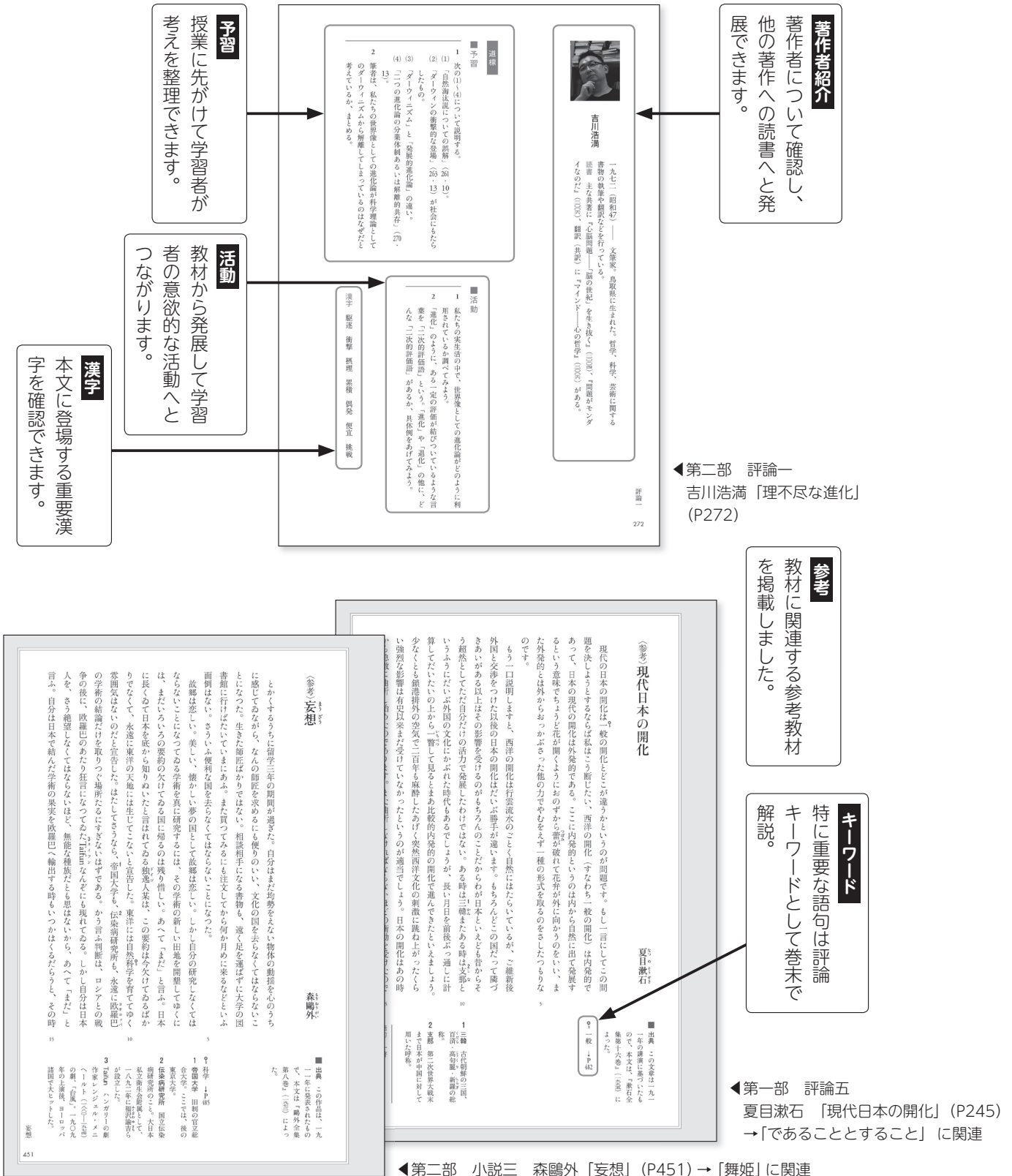
貨幣と言葉の間には、いくつもの比喩的アナロジーをあげることができただけでなく、その相同性の底にこそ文化の本質を明かす鍵が潜んでいるように思われて興味深い。まず第一に、「両者とも『価値』の基礎であることに注目します。貨幣が価値をもつ、もしくは価値の尺度となっているということは、ほぼ自明のように思われる。「価値」とは（なう）であり物の「有用」のことであるから、お金が無価値なものと呼ぶはずはないだろう。少なくとも現金の貨幣経済の下においては、一日たりともお金なしでは生きていけない。現代人が、衣・食・住に代表される生活の要求を満たすために「交換価値」という種類の価値の世界に生きているならば、貨幣は「価値」の形態であるばかりか、「価値」そのものように思われてくることも納得できる。

▲第一部 評論二
丸山圭三郎「言葉と貨幣」(P51)

教材の末尾には学習の手引きとして「道標」を置きました。「道標」は、学習者が自ら課題を発見し解決できるよう、思考力・判断力・表現力を高める工夫をこらした、新しい学習の手引きの形です。

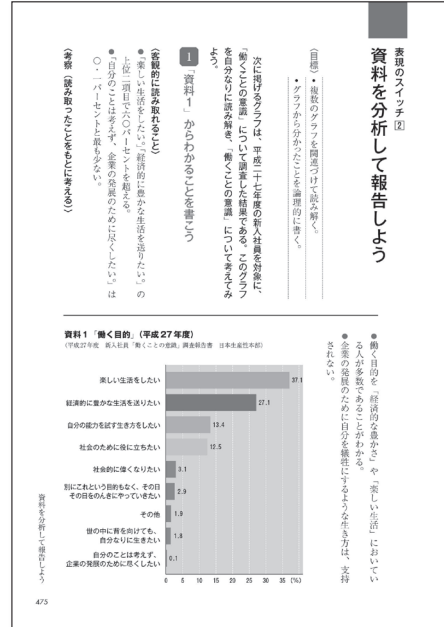
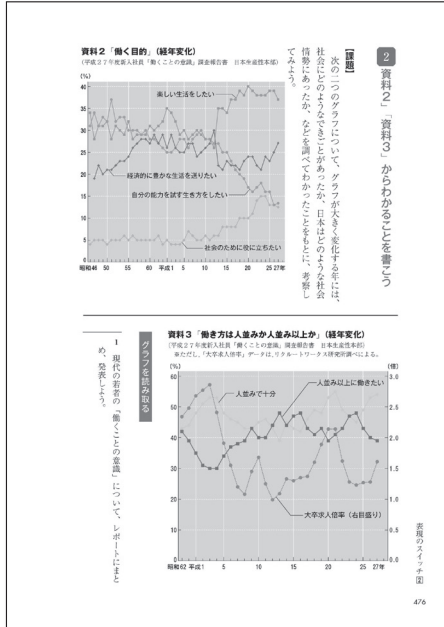
著作者の紹介と、設問、漢字学習の三つの部分に大きく分かれており、「予習」では、授業に先がけて、生徒が教材本文を読み、考えを整理しておくべき内容がまとめてあります（反転学習）。「活動」では、教材から発展し、他の資料にあたって調査をしたり、調査の内容を報告したり、自分の意見をまとめたりするなど、学習者の意欲的な表現へとつながる課題がまとめてあります（表現活動）。

また、教材への関心を高め、理解を深くするために、教材に関連する教材を「参考」として掲載しました。



言語活動の特色

与えられた作業をこなすステレオタイプの活動ではなく、中学校までの学習で獲得した知識・技能を活用して、自分で考えるといった、積極的な活動に取り組めるよう、さまざまな活動を設定しました。その際、現代の社会・歴史の中の自分といった存在を改めて確認しながら、高校生として、より深い活動となるよう留意しました。



表現のスイッチ
 積極的な活動に取り組める表現活動。

▲第二部 表現のスイッチ2「資料を分析して報告しよう」（P475～476）

資料編の特色

『近代文学史』では、近代以降の文学が生み出した「文体」の変遷についてまとめました。また、『評論キーワード集』では、評論文を読むにあたり必要な事物の解説をまとめて示し、学習段階に応じて繰り返し参照できるようにしました。

近代文学史—文体の変遷

この本は、近代以降の文学が生み出した「文体」の変遷についてまとめた。また、『評論キーワード集』では、評論文を読むにあたり必要な事物の解説をまとめて示し、学習段階に応じて繰り返し参照できるようにしました。

『近代文学史』では、近代以降の文学が生み出した「文体」の変遷についてまとめました。また、『評論キーワード集』では、評論文を読むにあたり必要な事物の解説をまとめて示し、学習段階に応じて繰り返し参照できるようにしました。

近代文学史—文体の変遷

この本は、近代以降の文学が生み出した「文体」の変遷についてまとめた。また、『評論キーワード集』では、評論文を読むにあたり必要な事物の解説をまとめて示し、学習段階に応じて繰り返し参照できるようにしました。

『近代文学史』では、近代以降の文学が生み出した「文体」の変遷についてまとめました。また、『評論キーワード集』では、評論文を読むにあたり必要な事物の解説をまとめて示し、学習段階に応じて繰り返し参照できるようにしました。

近代文学史—文体の変遷
 文体の変遷をたどりながら近代文学史を学べます。

▲資料編 「近代文学史—文体の変遷」（P478～479）

2. 対照表

凡例 3 = 内容 (1)指導事項 (2)言語活動例 4 = 内容の取扱い

第一部						
図書構成・内容		学習指導要領の内容			該当箇所	配当時数
評論一						
ミロのヴィーナス	清岡卓行	3(1)アイオ	3(2)イ	4(1)(2)	P8-29	
知とは何か	内田樹	3(1)アイエオ	3(2)イエ	4(1)(2)		
日本の庭について	山本健吉	3(1)アイウオ	3(2)イエ	4(1)(2)		
小説一						
山月記	中島敦	3(1)イウオ	3(2)ア	4(1)(2)	P30-41	
評論二						
市民社会化する家族	今村仁司	3(1)アイウエオ	3(2)イエ	4(1)(2)	P42-67	
言葉と貨幣	丸山圭三郎	3(1)アイオ	3(2)イ	4(2)		
方法としての異世界	見田宗介	3(1)アイオ	3(2)イ	4(1)(2)		
小説二						
こころ	夏目漱石	3(1)イオ	3(2)ア	4(1)(2)	P68-97	
評論三						
アイデンティティの混交性	梅森直之	3(1)アイウオ	3(2)イ	4(2)	P98-121	
衣服という言葉	小野原教子	3(1)アイウオ	3(2)イ	4(1)(2)		
他人の中の自分	池上哲司	3(1)アイエオ	3(2)イ	4(1)(2)		
随想						
互酬性の地平——エカシの語りから	今福龍太	3(1)アイオ	3(2)イ	4(2)	P122-133	
世代について	四方田犬彦	3(1)アイオ	3(2)イ	4(2)		
評論四						
地図の想像力	若林幹夫	3(1)アイオ	3(2)イ	4(2)	P134-159	
脱構築とは何か	大橋洋一	3(1)アイウオ	3(2)イ	4(2)		
資本主義と社会的欲望	岩井克人	3(1)アイオ	3(2)イ	4(1)(2)		
詩歌						
竹	萩原朔太郎	3(1)イウエオ	3(2)ア	4(1)(2)(4)	P160-181	
永訣の朝	宮沢賢治	3(1)イウエオ	3(2)ア	4(1)(2)(4)		
のちのおもひに	立原道造	3(1)イウエオ	3(2)ア	4(1)(2)(4)		
落葉	ヴェルレエヌ・上田敏訳	3(1)イウエオ	3(2)ア	4(1)(2)(4)		
小諸なる古城のほとり	島崎藤村	3(1)イウエオ	3(2)ア	4(1)(2)(4)		
小景異情	室生犀星	3(1)イウエオ	3(2)ア	4(1)(2)(4)		
現代の短歌		3(1)イウエオ	3(2)アウ	4(1)(2)(4)		
現代の俳句		3(1)イウエオ	3(2)アウ	4(1)(2)(4)		
表現のスイッチ1						
言葉を吟味して短歌を作ろう		3(1)イウオ	3(2)アウ	4(1)	P182-183	
小説三						
バックストローク	小川洋子	3(1)イウオ	3(2)ア	4(1)(2)	P184-217	
卒塔婆小町	三島由紀夫	3(1)イオ	3(2)アウ	4(2)		
評論五						
「である」ことと「する」こと	丸山真男	3(1)アイウオ	3(2)イ	4(1)(2)	P218-251	
「安楽」への全体主義	藤田省三	3(1)アイウオ	3(2)イ	4(2)		
〈参考〉現代日本の開化	夏目漱石			4(2)(3)		
〈参考〉漫罵	北村透谷			4(2)(3)(4)		
実用文						
通俗書簡文	樋口一葉	3(1)アイオ	3(2)ウ	4(1)(2)(4)	P252	
					計	

第二部						
図書構成・内容		学習指導要領の内容			該当箇所	配当時数
評論一						
環境保護は何を意味するか	加茂直樹	3(1)アイウオ	3(2)イ	4(2)	P254-279	
理不尽な進化——誤解を理解する	吉川浩満	3(1)アイオ	3(2)イ	4(2)		
技術の変質と二十一世紀の課題	加藤尚武	3(1)アイエオ	3(2)イエ	4(1)(2)		
小説一						
檸檬	梶井基次郎	3(1)イウオ	3(2)ア	4(1)(2)	P280-303	
〈参考〉文学の概念	加藤周一			4(2)(3)		
レーダーホーゼン	村上春樹	3(1)イオ	3(2)ア	4(1)(2)		
評論二						
〈私〉はどこへ行く？	黒崎政男	3(1)アイウオ	3(2)イ	4(1)(2)	P304-325	
アーキテクチャの権力	大屋雄裕	3(1)アイエオ	3(2)イ	4(1)(2)		
ロスト近代	橋本努	3(1)アイエオ	3(2)イ	4(2)		
小説二						
俘虜記	大岡昇平	3(1)イオ	3(2)ア	4(2)	P326-355	
忘れられたワルツ	絲山秋子	3(1)イウオ	3(2)ア	4(1)(2)		
評論三						
「知」をこえる知	田川建三	3(1)アイウエオ	3(2)イ	4(1)(2)	P356-381	
「歴史」を語る	野家啓一	3(1)アイエオ	3(2)イ	4(2)		
言語が見せる世界	野矢茂樹	3(1)アイエオ	3(2)イ	4(2)		
随想						
後生の桜	石牟礼道子	3(1)アイオ	3(2)イ	4(1)(2)	P382-395	
望郷と海	石原吉郎	3(1)アイオ	3(2)イ	4(2)		
評論四						
グローバル化の波打ち際で	西谷修	3(1)アイエオ	3(2)イエ	4(1)(2)(4)	P396-423	
幽玄の神秘主義	中沢新一	3(1)アイウエオ	3(2)イエ	4(1)(2)		
出来事としての文学	小林康夫	3(1)アイウオ	3(2)イエ	4(1)(2)		
小説三						
舞姫	森鷗外	3(1)イウオ	3(2)ア	4(1)(2)(4)	P424-453	
〈参考〉妄想	森鷗外			4(2)(3)(4)		
評論五						
陰翳礼讃	谷崎潤一郎	3(1)アイウオ	3(2)イ	4(2)	P454-474	
日本文化私観——美について	坂口安吾	3(1)アイウエオ	3(2)イ	4(1)(2)		
平家物語	小林秀雄	3(1)アイウエオ	3(2)イエ	4(1)(2)		
表現のスイッチ 2						
資料を分析して報告しよう		3(1)エ	3(2)エ	4(1)(4)	P475-476	
資料編						
近代文学史——文体の変遷				4(3)	P478-488	
評論への展望——キーワード集						
					計	